

■ 開業以来の総カルテ概数（破棄しているカルテを含む）

約 枚

■ 予防ケア・メンテナンス率

- ① 年間予防ケア・メンテナンス来院者比率
分子
= メンテナンス行為を行なった人数
分母
= 保険レセプト枚数
(+ 自費のみの来院者数)

直近の12カ月												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計

12カ月の平均値 %
小数点1桁まで

- ② 3年後メンテナンス移行比率

分子
= 分母の患者のうちメンテナンス行為を行なっている人数（2012年1月～12月）
分母
= 3年前の1年間の純初診患者数（2009年1月～12月）
= %
小数点1桁まで

分母は、すべての純初診患者で、急患、無歯顎などあらゆる事情のある患者、転居、死亡した場合も含まれます。

分子は、その純初診患者のうち、メンテナンス行為を行なった人数（期間中1度でも）。

この1年にメンテナンス目的で来院していても、メンテナンス行為をしていなければカウントしません。

また、通院が2年空いたとしても、この期間内に1度でもメンテナンス行為をしていればカウントします。

補綴処置が終わっていない場合でも、メンテナンス行為をしていれば含まれます。

2年に1度のメンテナンス期間を設定していたために、この期間にメンテナンス行為をしていない場合は、含みません。

あくまでも、この期間に「メンテナンス行為」をした人数です。

■ メンテナンス診療時に定型的に行うこと

(例) 乳歯列： 染め出し 清掃研磨 TBI _____
() _____ _____ _____ _____

(例) 混合歯列： 染め出し 清掃研磨 TBI _____
() _____ _____ _____ _____

(例) 永久歯列： 染め出し 清掃研磨 TBI _____
() _____ _____ _____ _____

() _____ _____ _____ _____

■ メンテナンスへの移行基準（基準を設けていない場合は「なし」と記載）

小児： _____

成人： _____

■ 規格性のある口腔内写真の撮影状況

規格と撮影時期、頻度など（例：初診時すべての患者につき乳歯3枚、混合歯列3枚+6番の萌出本数分、永久歯13枚）

■ 歯周精密検査の有無と内容

例：16歳以上に実地：ポケット、BOP、PCR(6点法)、リセッション、動揺度、根分岐部、角化歯肉量

■ エックス線の撮影状況

時期、撮影時期、頻度など（例：初診時にパントモ、歯周検査時に口内法エックス線写真10枚）

■ 疾病リスク評価の基本的な考え方

・問診、視診、触診によるリスク評価は、疾病の診査/診断とともに、通常すべての患者さんにされていると思われますが、唾液を用いた細菌数簡易検査やポケットプロービング検査などの貴診療所における実施基準がある場合はご記入ください。

(年齢、主訴、希望、疾病履歴、条件などによる対象者のカテゴリと通常ルーチンに行うリスク検査)

<例> 対象者(3歳以上18歳未満、齲蝕履歴有り) 検査：齲蝕原性菌数簡易検査、唾液緩衝能検査など

<例> 対象者(14歳以上、歯肉出血のある者、35歳以上全員) 検査：歯周組織基本検査

対象者 _____ 検査 _____

対象者 _____ 検査 _____

対象者 _____ 検査 _____

対象者 _____ 検査 _____

■ 口腔内写真を使った患者さんのお口の状態の説明は？

ほぼすべての患者 特定の患者(どのような)を除いて 特定の患者(どのような)のみ
() () ()

■ "知らない"を"知っている"に、いつ、どのような方法で

「歯科疾患の予防は適切なセルフケアとプロフェッショナルケアによって容易に達成できること」を「いつ」「どのように」伝えていきますか。

いつ・・・ _____ どのように・・・ _____

いつ・・・ _____ どのように・・・ _____

いつ・・・ _____ どのように・・・ _____

いつ・・・ _____ どのように・・・ _____